

## 〈開催趣旨〉—表示なく既に流通、有機JASも。そして学校給食も？

全国的に有名なブランド米「あきたこまち」は、秋田県産についてはほぼ全量が、昨年産米から「あきたこまちR」に切り替わっています。「あきたこまちR」は、重イオンビームによる放射線育種法で生み出されたお米ですが、従来の「あきたこまち」と区別されることなく生産・販売されています。有機JAS認証米としても「あきたこまち」の名称で流通しており、秋田県内では学校給食への利用も検討されています。農水省・秋田県は、この「あきたこまちRはあきたこまちと同等」と説明していますが、果たして本当に同じなのでしょうか。

### IFOAMの懸念と農水省の回答

国際有機農業運動連盟 (IFOAM Organics International) は昨年11月、農水省・農研機構・秋田県などに書簡を送り、以下の懸念を表明しました。

- 放射線育種と遺伝子組み換えの関係
- 有機JAS認証の対象となる根拠
- 表示を「あきたこまち」に統一する理由
- 日本のコメ輸出全体への影響
- 有機農業における「予防原則」の軽視

これに対し今年3月、農水省から回答が届きましたが、従来の説明を繰り返すにとどまり、IFOAMが求める説明には至っていません。農水省とは、ひきつづき、「国際対話」をしていきます。

### 栄養成分比較からわかること

今回の発表者・里見宏氏 (Dr.PH、公衆衛生・疫学専門家) は、「あきたこまち」と「あきたこまちR」のサンプル分析を行い、タンパク質などの必須栄養素が有意に劣化している可能性を指摘しています。3月のIFOAMとの国際対話において、農水省は「そのことに関するデータはない」と表明しました。データが存在しないまま、栄養素が低下している可能性のあるお米を従来品と同様に販売し、表示も行わないことには、「同じであること」の証明(挙証責任)が問われます。有機米として海外への販売も展望されており、国際的な批判も高まっています。

IFOAMジャパンはこれまで、2月・3月に「オンライン国際対話」を開催し、この問題の総論的な周知と議論を進めてきました。本イベントはその各論編とも言える勉強会と議論の場です。第一回として、栄養成分の比較分析結果をもとに、「あきたこまちR」と「あきたこまち」が本当に同じお米といえるのか、生産者・消費者とともに考えます。



主催：特定非営利活動法人 IFOAM ジャパン

賛同：照射食品反対連絡会（全国の消費者団体等54団体および個人

で構成）、あきたこまちを守る会、秋田県有機農業推進協議会

協力：OKシードプロジェクト、(一社)オーガニックフォーラムジャパン

日本オーガニック会議、(特非) 全国有機農業推進協議会、

オーガニック学校給食フォーラム実行委員会、(特非) 日本有機農業研究会

協賛：兵庫県有機農業研究会

